

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870900145		
法人名	株式会社 アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ夙川		
所在地	兵庫県西宮市樋之池町16-4		
自己評価作成日	平成26年6月16日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成26年7月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

8月で開所15周年を迎えます。  
夙川さくら倶楽部の開催や施設内での行事の案内を出して地域の方に参加していただいたり、ボランティアセンターでの認知症についての勉強会の開催などを通して交流を深めるとともに、認知症高齢者の施設について知っていただく機会となっていければと考えております。  
ご入居者に所縁のある場所へ出かけたり、少し足を延ばして淡路島や有馬、神戸への外出など、楽しみのある生活を送っていただけるように心がけています。  
ご入居者やご家族の想いに寄り添い、皆様に心穏やかに過ごしていただけるように、これからも努力し続けていきたいと思います。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アクティブライフ夙川」としてグループホームの他、デイサービス・訪問介護・居宅介護支援等の介護サービスを複合的に提供している。「地域社会と共に」を理念の一つに掲げ、地域に開かれたホームとして、自治会活動への参加やボランティアの受け入れ、地域の認知症勉強会の開催等、地域とのつながりを大切にするとともに、家族への連絡を密にして家族との信頼関係の構築に取り組んでいる。利用者が介護される一方でなく、何か役割が持てるよう社会的居場所づくりに努めている。利用者に寄り添い、利用者の主体性を尊重した支援の実践の為に、利用者参加型アクティビティの取り組み等に職員全員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針は各フロアに掲示していつでも見られるようにしています。その一つに「地域社会とともに」を掲げ、住み慣れた地域と関わりを持って生活していただくことを大切にしています	「ご入居者が主人公」「生きがいのある生活」「尊厳を保つ」「地域社会と共に」という法人理念を具現化するために、事業所独自の活動方針を作成し、具体的取組内容を事業計画の中に採り入れて四半期ごとに進捗を確認している。理念を玄関や各ユニット毎に見やすいよう掲示するとともに、入社時オリエンテーションやグループホームのミーティング、朝礼時等で日々のケアを理念に立ち戻って振りかえり、ケアに反映できるよう努めている。例えば、美術館での個展鑑賞等、利用者一人ひとりの希望、意向に沿った外出支援に努め、理念、活動方針の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内のイベントの案内を地域へ発信し、参加者もあります。自治会にも加入しており回覧板が回ってきます。地域の情報誌に掲載されているイベントに参加することもあります。	地域の自治会に加入し、回覧板の活用や地域情報誌の配布などで近隣行事等を情報収集し、地域との関わりを継続に努めている。散歩時にはお互いに挨拶を交わしあい、地域住民が栽培した花等を届けている。グループホーム主催の夏祭りや餅つき大会への住民の参加、フラダンス等各種ボランティアの来訪、また、利用者とともに地域の演奏会や夏祭りへの参加等、日常的に地域と交流している。地域での認知症勉強会活動、トライやるウィークでの中学生や近隣校の実習生受け入れ、清掃活動への参加、事業所に設置しているAEDの使用啓発等、地域で必要とされる活動や役割を担っている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHやホームヘルプのスタッフが北夙川ボランティアセンターで認知症の勉強会を行っており、登録ボランティアの方達に参加して頂いています。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し、現状の報告とともに意見交換の場とさせていただいています。可能な時にはご入居者にもメンバーとして出席していただき、生活の様子などをお話してまいります。	会議は2カ月に1回開催し、利用者代表・家族代表・地域包括支援センター職員・民生委員・自主防災会(自治会)代表・知見を有する者等が参加している。利用者の状況・行事、研修、事故、ヒヤリハット等の事業所の取り組み・第三者評価結果・家族アンケート集計結果等について報告し意見交換を行っている。また、利用者は事業所での生活の様子等を話している。運営推進会議メンバーへの開催案内に意見欄を設け、参加出来なくても意見等を表し易くして、より多くの意見・提案の把握に努める等、そこでの意見・提案をサービスの向上に活かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員を通じて、事業所の取り組み等の情報提供を行うとともに、西宮市グループホーム連絡会に市の担当者も参加しておりそこで情報共有の機会を持っている。事業所が主催する「夙川さくら倶楽部」でも交流している。また、運営推進会議議事録を郵送ではなく持参し、法令解釈の相談等で、市担当窓口を訪問したり、メール等で連絡を密にしている。市担当者も事業所見学に来訪したり、事業所からの相談等に協力しており連携が図られている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束はしない方針で、やむを得ない場合にはスタッフやご家族に理由を明確にして説明を行い、同意書を交付しています。本人の状態を確認しながら、随時拘束の解除を検討してケアをしています。	法人内研修や事業所内研修を定期的に行い、拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる具体的な行為を学ぶと共に言葉等による心理的な拘束についても学んでいる。法人研修は参加と研修報告書の提出が義務づけられており、指名された職員が参加できるようシフト調整を行う等、職員への理解の浸透と周知が図れるよう取り組んでいる。意図的でなくても不適切と思われる対応や言葉がけがあればお互いに注意し合っている。家族にも身体拘束により予測されるリスクを説明し、可能な限り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所内のエレベーターはテンキー操作により使用し、また、玄関は事務所スタッフにより開錠操作されているが、職員は施錠による弊害等について話し合う機会を持っており、外出の希望や気配を察知したときは、利用者の思いを大切に、その都度付き添い対応している。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束や虐待についての社内研修への参加や、ミーティングでもどのような行為が拘束や虐待に当てはまるのかについて勉強する機会を設けています。	上記の研修等と同じ方法で、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、身体的以外の虐待についても学んでいる。日常のケアで不適切だと思われる対応や言葉掛けがあれば、その都度注意し合うよう取り組んでいる。管理者等による日常的な職員への声かけや、職員の希望を採り入れたシフト調整等、職員のストレスや疲労が利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。また、介護技術の未熟さが虐待に結びつくことの無いよう、介護技術の向上に向けた研修にも取り組んでいる。入浴時等の利用者の身体状況に留意し、事業所や自宅での虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度についての施設内勉強会を開催し、職員の理解を深めるように努めています。	法人内研修に「権利擁護」を採り入れ、事業所内研修でも成年後見人制度等について学ぶ機会を持っている。現在成年後見人制度を利用している人もあり、法人の総務担当者や協力しながら後見人への情報提供や連絡・相談等の支援を行っている。パンフレット等の資料も準備し、活用が必要と思われる利用者があればいつでも支援できる体制がある。	
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に重要事項説明書の読み合わせを行い、ご利用者やご家族がサービス内容についてわかりやすい説明ができるように心がけています。	契約前の事業所見学・自宅訪問時にサービス内容の概略を説明している。契約時には、管理者と共に所長も同席し、重要事項説明書を1項目ずつ読み合わせ、理解しやすい言葉に直して説明している。説明時には「ご利用のしおり」を用いて、利用料金を具体的に例示し、退居条件や保険外料金等についても詳しく説明している。また、食事やアクティビティ等事業所の特色も合わせて説明し、理解・納得を図っている。契約の改正や変更が生じた場合は、運営推進会議等でも説明し、家族には根拠を明確にした文書を送り同意を得ている。また、タイミングが合えば家族会でも説明している。入院や入所等での解約時には、退居先の施設等の情報提供を家族・施設等へも行い、十分な説明と納得を経ての円滑な退居のための支援を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設とご家族、またご家族同士の意見交換の場となるよう、家族会を開催しています。日頃のご来訪時にもお話を伺うように努めています。ご利用者の要望は日常のコミュニケーションの中からもくみ取れるように努め、記録で共有しています。	毎月、利用者の近況を家族に手紙で伝えると共に、家族訪問時にも声かけと近況報告を行い、要望や意見等を積極的に把握するよう努めている。また、年に2回開催する家族会では意見等が出やすいようテーブルの配置を工夫し、運営推進会議でも案内文書への意見欄の設置等、率直な意見が聴けるよう取り組んでいる。法人として家族アンケートを実施し意見収集に努めている。利用者の状況・希望に沿って訪問理美容事業所の選択ができるよう事業所の追加を行う等、出された提案を運営に反映させている。また、第三者評価時の家族アンケートも貴重な意見としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや半年に一度の面談、毎月のミーティングの中で話し合い、毎年の「改善提案・報告」で書式で本社へ提出しています。	毎月のミーティング、朝礼・申し送り、日々のコミュニケーション等で、意見交換しやすいように配慮し、職員が意見を出しやすい職場環境づくりに努めている。年に2回の上位者との個別面談の機会があり、運営に関する職員の意見等を聞き、それぞれの職員が目標を設定し努力していけるような支援体制が整っている。「改善提案・報告」の提出で、法人本部へ意見・提案を表明する機会もある。法人代表者も定期的に事業所を訪問し、意見等の把握に努めている。職員異動については、利用者との馴染みの関係にも配慮し、利用者へのダメージを極力少なくするよう取り組んでいる。利用者の状況に応じた手すりの設置や動線に配慮したテーブル配置の工夫等、出された提案を運営に反映させている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との半年に一度の面談で、取り組んだ業務のふり返りや今後についての具体的な目標設定について話し合い、向上心を持って仕事に取り組めるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後定期的に本社研修センターでの研修を受講し、ステップアップを図っています。その際の報告書については直属の上司も目を通し、力量の把握に努めています。経験なども考慮して、外部研修の受講を勧めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加や、他施設の運営推進会議に出席するなどして、交流の機会としています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけご自宅へ伺い、ご本人やご家族からお話を伺うようにしている。また、利用中の事業所から情報提供をいただく等、ご本人の環境についても理解するように努めています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅への訪問だけではなく、お電話での問い合わせにも親身にお話を伺い、見学に来られた時ご要望やご質問についても納得していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望に対して、どのようにサポートできるのかを介護、看護職員で検討し、インフォーマルなサービスの情報も提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をお手伝いするという観点から、生活の中でしてみたいこと、継続したいことなどを日々のコミュニケーションの中からくみ取り、実践していけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の日程を事前にご案内し、ご入居者と一緒に参加していただいたり、体調の変化がある時には連絡相談し、一緒にサポートできるように努めています。		



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたでも来て頂けるようにしています。毎日どなたかのご来訪があり、居室で過ごしたり、散歩に出かけられることもあります。また、日常的に近隣のスーパーや公園へ出かけることで顔なじみの関係を続けられるよう努めています。	入居時に利用者・家族等から生活歴等を聞き取り「入居時面接シート」に、また日常の関わりの中からこれまでの利用者と地域との関係を把握し、「日常」欄等へのパソコン入力で情報を共有している。親しかった友人や近隣の知人の来訪時には湯茶の接待や居室を使用してもらい気軽に訪問できるような雰囲気づくりを心がけ、再来訪を依頼している。手づくりの年賀状等、手紙のやり取りや馴染みの薬局への買い物同行等の支援を行っている。また、母校を訪問し学食で共に食事を楽しんだり、母校の学生にボランティアとして来訪を依頼する等利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やアクティビティの座席は、ご入居者同士のコミュニケーションがとりやすい様に配慮し、他の人とコミュニケーションをとることが難しいご入居者にも、スタッフが間に入ることによって関わりを持っていただけるようにしています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方には、入居中の写真をアルバムにして差し上げています。また、施設内のイベントの内容によってはご案内を送付し、参加して下さる事もあります。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中からもご意向をくみ取るようにし、記録に残すことで把握に努めています。会話が困難な方は、表情や態度、行動などからくみ取るようにしており、ご家族からお話を伺うこともあります。	入居時に利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、日々の関わりの中でも把握するよう努めている。意思の疎通が難しい利用者も日々の暮らしの中での言葉・表情・行動から利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取れるよう、日常の行動等の観察を大切にしている。把握した情報は、その都度パソコンにて「日常」欄に入力し、また、申し送りやミーティング等でも情報を共有しながら、時々の状況に応じた利用者本位の支援に繋がられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味嗜好などは、ご本人やご家族、主治医から出来るだけ詳しく伺い、記録として残すことで情報として職員の間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や体調の変化などは、その日のうちにパソコンで入力しています。重要なことは申し送りを行い、職員全員が把握できるように努めています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺い、かかりつけ医等と相談して介護計画を作成しています。ご家族に説明してお渡しし作成後も期間内に変更があった場合には再度かかりつけ医やご家族に相談・確認しながら現状に則した計画作成に努めています。	本人・家族の意向・希望をしっかりと把握し、かかりつけ医、看護師、訪問マッサージ師、デイサービス担当者、厨房スタッフ等からの意見も取り入れて、本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について、職員間で話し合い、基本的には6ヶ月ごとに介護計画を作成している。毎月のミーティングで全ての利用者についてモニタリングを行い、目標に沿った支援内容の実施状況や達成状況を確認し、次の計画に結び付けている。利用者の状況や家族の要望等に変化があれば期間に関係なく、現状に即したものに変更し迅速に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は当日に勤務のスタッフが必ずその日のうちにパソコンに入力し、どのスタッフも勤務前には記録の確認をしてからその日の勤務にあたるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽療法やフィットネスは専門のスタッフによって実施することで、ご入居者の身体や精神の健康増進に努めています。外出時にはご家族や他部署からも協力を得て、安全に外出できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もちつきや夏(秋)祭りに地域の方が参加されたり、近隣の小学校の催しへ出展などをして、地域との馴染みの関係を作るようにはたらきかけている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望があれば入居前からのかかりつけ医に継続して診てもらえるようにお手伝いしています。嘱託医には、ご利用者全員の健康管理のため、月1回の巡回を行っています。また、受診時には看護師が付き添うようにしています。</p>	<p>月1回定期的に回診を行う嘱託医をかかりつけ医としている利用者や、今までのかかりつけ医で受診している利用者もあり、本人・家族の希望を尊重した受診支援を行っている。今までのかかりつけ医による往診もあるが、往診が行われないかかりつけ医等への通院介助は事業所が臨機応変に対応している。受診結果についてはお互いに報告しあい、「医師指示事項」に記録として残し情報を共有しながら支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>受診時は、看護師のほかに職員でも対応し、医師からの指示などを他の職員や看護師に報告し、記録も残しています。記録は看護師も閲覧・記入することができます。</p>	/	/
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中にお見舞いに伺った際には、担当看護師や担当医師、病院関係者からも状況を伺い、早めに退院できるように心がけています。退院後の注意事項について伺ったり、主治医への連絡調整などの連携に努めています。</p>	<p>利用者の入院時にはかかりつけ医等と連携を取りながら、「紹介状」「介護サマリー」等で入院時における本人の支援方法に関する情報を提供している。入院中は利用者の状況によっては洗濯物の交換もあり頻回に見舞いに行き、MSW等病院関係者から状況等について説明を受け、早期退院に向け協力し合えるよう話し合っている。退院時にはカンファレンスに出席し、かかりつけ医への連絡調整を行うとともに、「看護サマリー」等の提供を受けて、退院後の事業所での支援に活かしている。</p>	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した時の対応についてGHで出来る事を説明しています。ご入居者に変化があった場合は、ターミナルケアについても早めの時期から医師とご家族の話し合いの場を設けるようにし、そのつどGHで出来る事を確認しています。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所が対応し得る支援方法を「重度化した場合に於ける対応に係る指針」として作成しており、契約時に指針をしっかりと説明し、本人・家族の意向を確認しながら同意を得ている。利用者の重度化が進んできた段階に応じて、家族等の意向を確認しながら支援方法をかかりつけ医等を交えて繰り返し話し合い方針を共有している。看取りにあたっては、かかりつけ医とともに、歯科医師等地域の関係者の協力を得ながらチームで支援に取り組んでいる。また、職員の精神的な負担軽減等のために事業所内で看取りに関する研修を実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ミーティングや施設内勉強会を開催し、急変時の対応やAEDの取り扱いについての確認をおこなっています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して、年2回の消火・通報・誘導訓練をおこなって手順の確認をしています。	消防署の立ち合いも得て、利用者も参加して夜間の時間帯を想定した消火・避難誘導・通報等の総合訓練をグループホームが主体となり年2回実施している。火災以外の災害時にも利用者の避難誘導ができるよう、事業所内で防災研修を実施し、市のハザードマップ等を使用して、避難場所・役割分担・対応手順等について再確認している。全職員に「地震時アクションカード」を配布し、安否確認や位置確認の訓練を実施している。運営推進会議を通じて、周辺地域に協力を呼びかけるとともに、地域の自主防災会担当者とも連絡を密にし、利用者の見守り等を依頼している。災害時に備えて食料品や飲料水、懐中電灯等の備蓄がある。事業所として、防火に努め電気製品チェックリストに沿って定期的に安全性を確認している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のひとつである「尊厳を保つ」ことを意識し、マナー研修や認知症の勉強会を定期的に開催して、接し方や言葉かけの注意点について意識づけをしています。	「尊厳を保つ」を理念の一つに掲げ、利用者の人格を尊重しプライバシーを損ねる事のないような対応や言葉かけに努めている。「あいさつ」「表情」「言葉遣い」「身だしなみ」「態度」に関する標語を職員から募り、「マナー5指標語」としてカード式に作成して毎週の朝礼時に唱和している。新人研修や法人研修の「プライバシー保護」「接遇」「マナー」等で繰り返し学ぶ事で、職員一人ひとりの意識向上に努めている。日常的に言葉遣いや対応等に留意し、例えばトイレ誘導時はさりげない声かけを行う、おむつは布袋に入れて運ぶ等、プライバシーへの配慮や羞恥心の軽減に取り組んでいる。職員間で利用者状況を申し送ったり話し合ったりする時は名前ではなく部屋番号を用いるなど、プライバシーへの配慮が日常的な場面に定着している。広報誌「季刊アクティブ」やホームページ、事業所内等に掲載する写真は同意を得、個人記録類は「社外秘」のシールを貼付して詰所の施錠できる場所に保管する等、個人情報の適正な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のお話の中からも、ご本人の希望を引き出すように意識した声掛けや関わりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かいスケジュールは決めず、食事やアクティビティなどの日課となるようなこと以外は基本的に自由に過ごして頂いています。アクティビティも、参加・不参加はご自分で決めて頂いています。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力してもらい、ご本人が好きな服を持ってきていただいたり、お化粧の習慣があった方には出来るだけ続けて頂くようにしています。また、介助が必要な方にも、なるべくその日に着る服を選んでもらうようにしています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各フロアではご飯とお味噌汁を配膳をしています。スタッフと一緒に洗い物やお茶を入れて頂いたりと役割を持って準備などをして頂いています。また行事やお誕生日には句を取り入れたりお好きなものを提供できるようにしています。	施設内厨房で調理した食事が提供されている。四季折々の行事や節句に合わせて季節感を出したり、施設内のイベントに合わせるなど、献立や食材に配慮・工夫がされている。利用者の時々の体調に配慮した食事形態の変更、状況に応じたきざみ食やミキサー食にも対応している。適宜の外食やおやつ作り等で変化をもたせ、食への楽しみにも配慮している。利用者の食事づくりへの参加は、手伝える人が少なくなってきてはいるが、一人ひとりの希望や関心等を見極め、無理のない範囲で力や好みを活かすよう努めている。職員1名が検食を兼ねて利用者と共に同じ食事を摂り、感想、残食量等を「食事ノート」に記録して、厨房との「食事ミーティング」で話し合い、希望・意向等を献立等に反映させている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示がある方や、個人の咀嚼嚥下の状態に食事の形態を合わせて提供しています。体調の変化にも対応してメニューの変更をしたり、むせやすい方にはゼリー状で摂取しやすい水分を用意しています。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で出来るところはいただき、お一人では難しい部分はお手伝いさせて頂いています。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に入力することでパターンの把握に努め、トイレでの自然な排泄を心掛けています。ご本人の状態を見て、昼と夜で使用する下着を変える場合もあります。	必要な人は排泄チェック表を活用し、タイミング、習慣に応じてトイレでの排泄を大切にしたい支援を行い、利用者によっては介護計画にも反映させて排泄の自立支援に取り組んでいる。夜間は紙パンツを使用するが、昼間は布パンツの使用を試みる等、羞恥心の軽減やおむつ類の使用を減らすよう取り組んでいる。トイレ誘導時はさりげない声かけを行う、おむつは布袋に入れて運ぶ等、プライバシーへの配慮や羞恥心の軽減に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずは運動や水分補給、乳酸菌飲料やヨーグルトなどで調整できるように気をつけています。医師や看護師とも連携して、体調やその人に合わせた緩下剤の服用量、方法、タイミングなどを検討して使用しています。		



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	習慣や体調により、日中に入浴される方や夕食後に入浴される方がいます。	入浴は基本的には週2～3回、午前または夕食後としているが、本人の希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しめるよう支援している。利用者の状況に応じてリフト浴にも対応し、不安の軽減や安全面に配慮した支援を行っている。負担感等で入浴を嫌がる人には時間をあけて声かけを行う等、一人ひとりの入浴忌避の理由に配慮した入浴支援を行っている。季節感を採り入れた、ゆず湯・菖蒲湯等の入浴機会もあり、また、一緒に歌を歌いながらの入浴等、利用者が楽しく入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間などは特に決めず、好きな時間に休んで頂くようにしている。また、その方の体質などを考慮してベッドのマットレスや掛け布団を替えたりすることもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のお薬手帳をみて、服用方法や効能、副作用についてわかるようにしています。降圧剤や緩下剤なども看護師や医師と相談して調整したり、お薬が変わった場合には様子観察・申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別には、読書や囲碁など個人的な趣味をや楽しみを続けて頂けるようにお手伝いしています。歌はお好きな方多いので、ほぼ毎日アクティビティとして取り入れいています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候やご入居者の体調などをみて、なるべく普段から近くへ出かけて頂けるようにお手伝いしています。ご家族との外出やお出かけも、できるだけ続けて頂けるようにサポートしています。	利用者一人一人の状況や希望にそって、毎日の気軽な散歩を希望する人には、近くの公園やスーパー等へ、時にはホームの庭で日光浴やお茶を楽しむ等、出来る限り戸外に出かけられるよう取り組んでいる。車での外出にも積極的に取り組んでおり、事業所での乗降介助や法人でのドライバー研修に職員が参加し、外出の機会を増やせる体制を整備している。車いすの利用者も利用者の状況に応じた移動に配慮し、外出機会が均等になるよう努めている。花鳥園、淡路島、大阪城等普段は出かけられないような場所でも家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際には立て替えで清算することが多く、ご本人にお支払いをして頂くことはありませんが、ご本人の安心の為に、外出の時にはお財布にお金を入れて出かけて頂きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的にはフロアの電話を使用して頂くことが多いですが、希望される方には居室にお電話を設置しています。また、携帯電話をお持ちのかたもおられます。お手紙の取次ぎもさせて頂いています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が生けた季節のお花や、飾りを配置して、季節感を感じられる空間になるように配慮しています。また、ご利用者の手作りの作品を飾ることもあります。	五月人形等季節折々の飾りつけを行い、季節の変化を感じとれるよう工夫している。生け花教室で生けた花や書道教室での作品も飾っている。ソファ・テーブル・椅子の配置は、車椅子でもスムーズに動けるよう暮らしの動線を考えると共に、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりにも配慮している。利用者とともに作ったカレンダーも利用者にも季節感や生活感を与えている。キーボードを奏でる利用者もいて、他の利用者とともに音楽を楽しむ等、居心地のよい共用空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席は、食事の時以外はお好きな場所に座って頂けるようにしています。ホールの椅子も特に置き場所は決めず、アクティビティなどの用途に合わせて配置を変えて、お好きな所に座って頂いています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れていた椅子や机などの家具、アルバム、枕などの寝具などを持ってきておられる方も居ます。	各居室のドアには木製の表札を掲げ、家庭的な雰囲気大切にしている。利用者・家族と相談しながら、一人ひとりの思いが反映されるよう支援しており、使い慣れた枕等の寝具や家具・家族写真・季節を感じさせる利用者の作品等が置かれ、一人ひとりの個性を大切にしたい居心地よい居室となっている。本人の持ち物が少ない居室には、職員が作成した「お誕生日カード」を飾るなど安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアやトイレ、浴室など必要な箇所に手すりを取り付け、安全に歩行して頂けるように配慮したり、車椅子を自分で操作する方もすれ違いがスムーズに行えるように家具の配置にも気をつけています。		